

**講習会名** 2013年第2回 にいがた摂食・嚥下障害サポート研究会講演会  
新潟大学大学院医歯学総合研究科 共催  
一般社団法人 新潟県歯科医師会 後援  
一般社団法人 新潟県歯科衛生士会 後援  
新潟県言語聴覚士会 後援

**日 時** 12月8日（日） 午前10時から午後4時半

**場 所** 新潟大学 有壬記念館

**参加者数** 67名

**参加企業** 8社

## 概 要

本講演会では、教育講演として松本歯科大学 増田裕次先生に「咀嚼機能の向上と健康生活」のテーマでご講演いただいた。咀嚼機能の向上と健康生活をテーマに、脳・全身機能との関わりを生理学的視点で解説いただき、さらに長野県塩尻市において、行政とともに行っている健康生活を促す活動や松本歯科大学発の噛むことを意識させる「かむかむメニュー」についてご紹介された。また今回は、「新潟の摂食・嚥下障害のこれまでとこれから」と掲げたテーマに沿って、新潟大学 井上誠先生に「新潟の摂食・嚥下障害の10年を振り返る」というタイトルで、新潟県ならびに新潟大学が地域と共に歩んできた摂食嚥下障害への様々な方面での取り組みについてご講演いただいた。辻村恭憲先生および張替徹先生には「新潟の摂食・嚥下障害の今を考える」というタイトルで、研究者としてまたリハビリテーション医としての視点から嚥下障害への取り組みについてご講演いただいた。

今回、特に力を入れた「現場からのレポート」のコーナーでは、見附市開業の中島郁夫先生、上越市国民健康保険牧診療所の杉田佳織先生、新潟市秋葉区開業の曾根清和先生、新潟県歯科医師会から加茂市開業の永井正志、摂食・嚥下障害の臨床や普及活動に携わられている4名の歯科医師にお集まりいただき、これまで自院で行ってきた嚥下障害に対しての取り組みや歯科医が関わる嚥下障害への取り組みについてお話しいただいた。

講演の間に設けられた休憩時間には、フロアにて今回ご協力いただいた8社の企業から、介護食品、介護食器、口腔ケア用品のサンプル紹介や説明があった。

最後に行われた総合討論では、医師、歯科医師、コメディカルや福祉介護職員間の連携の在り方を中心に多くの質問が挙がり、活発な討論が行われた。

## 参加者によるアンケート結果（有効回答数 55 名）

### 1. 参加者の性別

男性 25 名 女性 30 名

### 2. 参加者の年齢層

20～29 歳 2 名 30～39 歳 9 名 40～49 歳 24 名 50～59 歳 14 名

### 3. 参加者の職業

医療関係者 46 名 学生 4 名 会社員・公務員 4 名 その他 1 名

### 4. 今回の講演は有意義なものでしたか.

まったくそう思う 67% まあまあそう思う 33% どちらともいえない 他 0%

### 5. 今回の講演会はあなたの興味に対して適切でしたか.

まったくそう思う 60% まあまあそう思う 36%

どちらともいえない 2% あまりそう思わない他 0% 全くそう思わない 2%

### 6. 講演内容の難易をどう感じましたか.

非常に分かりやすかった 45% まあまあ分かりやすかった 49%

どちらともいえない 4% あまり分かりやすくなかった 他 0% 無回答 2%

### 7. 今後このような主旨の講演会を開催することについては

非常に賛成 82% 賛成 16% どちらともいえない 他 0% 無回答 2%

### 8. その他の意見

- ・ 医療関係者のデータは大切だが、「誰のための」サポートになるのか、具体的な結果に繋がるように進行していただくことを希望する。
- ・ 医科歯科の連携は重要なテーマだと思う。そこに ST が加わることも当然なことと思う。今後も参加する。
- ・ 午後の「現場のリポート」が歯科医ばかりで残念です。障害者施設勤務しており、見よう見まねで摂食・嚥下をみて、口腔ケアをしていますが、問題は山積みです。その声を聞いて下さる機会があるといいです。
- ・ VE の研修会に参加させて欲しい。
- ・ 摂食嚥下についての症状・診断・治療の進め方について、総論的に理解できるように H P か書物で紹介して欲しい。
- ・ 当院では今日聞いた話を臨床に使用することはないが、継続的にこのような話を聞いていくことが大切と思った。
- ・ 新潟県内の嚥下リハは歯科医師が中心となって進めている印象が強かったが、医師が中

心となっている場合、その医師はどのような展望プランをもっているか聞いてみたい。

- この研究会の懇親会があると、横のつながり、情報交換もできていいのでは？休憩時間に立食で行うなどしてはどうか？
- 新潟県内の地域で行われている摂食に関わる先生方の取り組みがわかりました。一般病院からは新大のように恵まれたチーム医療ができることは大変羨ましい。10年後の摂食嚥下が、どのように進歩していくのか、とても興味深い。
- 講演会の回数をもっと増やしてほしい。
- 利用者が望んで一口でも口から食べたいと思う希望に、その職種として何ができるか？何かできることをさせていただきたい。自分はDHなので、まず口腔ケアにより（口腔内を）きれいにする事で食べられる状態に近づけていけるようにする。そして経過を追っていくと、変化がみられる事例もあるかと思う。モチベーションを保っていきたい。
- 開業医の話は大変納得でき、今後も聞きたいと思った。辻村先生の今後の研究結果に期待しています。きれいなスライドありがとうございました。
- 開業医の現場の環境整備をどうするのか？リスク管理は、自分でできることはどの程度でどこまでできるのか？

